

## 令和7年度 岐阜県現代陶芸美術館 美術品等収集委員会 議事要旨

日時：令和7年11月19日（水）14:00～16:00

場所：セラミックパーク MINO イベントホール

### 出席者

○委員	伊藤嘉章	愛知県陶磁美術館総長、町田市立博物館館長
	唐澤昌宏	国立工芸館館長
	外館和子	多摩美術大学教授、美術評論家
	橋本麻里	甘橘山美術館 開館準備室室長
	矢橋龍宜	矢橋ホールディングス株式会社代表取締役会長
○事務局	石崎泰之	館長
	安田暁	総務部長
	市岡美咲	文化伝承課長
	西岡多江	係長（総務担当）
	岡田潔	学芸部長
	澤田恵	課長補佐（学芸担当）
	立花昭	係長（学芸担当）
	花井素子	係長（学芸担当）
	永井優里	主事（学芸担当）

### 議事録

#### ■イベントホールAにて

安田総務部長 本日はお忙しいなか、ご出席いただきありがとうございます。これより岐阜県現代陶芸美術館令和7年度美術品等収集委員会を開催する。

#### ～委員・事務局員を紹介～

これより委員会の進行については石崎館長が行う。

石崎館長 本年度は購入候補18点、寄贈候補陶磁器が197点、その他の寄贈候補10点。これまで、個人作家の作品が手薄だったので、まずは西日本を中心にお集めしたい。寄贈は澤田痴陶人、ドレスデンのものがかなりの数。雑多な感じもするが、宜しくお願いしたい。

岡田部長 手元の資料をもとに、説明をおこなう。まずは全体的なことから、先ほどあったとおり、購入候補18点、寄贈候補のうち陶磁器関係197点、絵画等10点。まずは作品調書に沿ってポイントを説明し、その後、隣の部屋で作品を実見いただき、担当学芸員に質疑応答をお願いしたい。

#### ～収集方針の説明～

それでは、候補作品について説明する。(以下調書に沿って説明)。

○購入作品 調書内容の抜粋

○寄贈作品 調書内容の抜粋

岡田部長 寄贈候補の内、No.29, No.42 は、岐阜県美術振興会が、安藤基金によって購入し、当館に寄贈する。No.30 は、岐阜県県民文化局が受贈していて、当館に所管替えする。

岡田部長 以上、要点のみ説明した。

石崎館長 それでは隣の部屋に作品を並べているので、実際に作品をご覧いただきながらご確認いただきたい。

■イベントホールB室にて

(伊勢崎淳 No. 1-2)

伊藤委員 箱書にある作品名の「備前」を入れるべきか?

唐澤委員 入れたり入れなかつたり。

石崎館長 箱書きを重視すべきだが、ふつうは入れない。

外館委員 私は入れている。

伊藤委員 難しいのはデータベースに入る時、入ってないと引っかからない

唐澤委員 (自身が企画した) 備前展では入れなかった。

外館委員 分かりやすいので入れてはどうか。

(隱崎隆一 No. 3)

外館委員 代表作と言ってよいもの。

唐澤委員 60歳のときに、自身の名前を「崎(たつざき)」にして、「隆」に一棒を入れるようにしたので修正。

(新庄貞嗣 No. 4)

石崎館長 萩についてはすでに大先生のものがある。作り方、焼き方がそれぞれ違う。

(福島善三 No. 5)

石崎館長 伝統工芸展の出品作。作品ができる前から頼まなければならない。

外館委員 歪を生かした造形である。

(今泉今右衛門 No. 6)

石崎館長 これまで有田もなかった。九谷もない。

橋本委員 今右衛門さん、なかつたんですね。

(伊勢崎晃一朗 No. 8-16)

唐澤委員 削岩機で石を割ったところに、土をバーンと打ち付ける。

伊藤委員 みんな口があいているんだね。

(大倉陶園 No. 18)

伊藤委員 これは彫文というのか?

- 立花学芸員 大倉陶園の記録による名称から引用。
- 伊藤委員 彫ってはいない。
- (荒川豊蔵) No. 19 - 20
- 唐澤委員 豊蔵さんは当て字が多い。箱も当て字。
- 伊藤委員 検索で引っかからないけど、じゃあどうするのか問題。続けて(正しく)入れておかなければならないか。
- (熊倉順吉) No. 23
- 伊藤委員 検索では「無題」も区別が難しい。
- 花井学芸員 朝日新聞に載ったことがあると(現所蔵者が作家から聞いて)もらった。新聞を調べてみたが、分からなかつたので今のところ「無題」とした。
- 外館委員 新聞に載ったのならタイトルが載っているかも。
- 唐澤委員 金子賢治さんが東近美の研究紀要にスケッチなどまとめているから、確認した方がいい。
- (加藤幸兵衛) No. 30
- 伊藤委員 調書は岐阜県から移管とあるが、キャプションとかは?
- 石崎館長 加藤幸兵衛氏からとする。もともと、美術館から頼んでいた。
- (林正太郎) No. 32-35
- 伊藤委員 ここに「」で書いてある春、夏、秋、冬も名称に入れた方がいいのでは。
- 永井学芸員 銘にはしていない。
- 石崎館長 名称には入れておくことにする。
- 伊藤委員 「春」は分かりやすい。
- 外館委員 「秋」と「冬」は見分けが難しい。存在感はある。
- 石崎館長 来年度、ギャラリー2で美濃陶芸の系譜の展覧会を予定している。
- (松本ヒデオ) No. 37
- 立花学芸員 一部しか展示できていないが、長テーブル2本分ある。
- 外館委員 大作ですね。
- 橋本委員 (調書の)点数から想像できなかつたが、ほんの一部とのことで理解した。
- (稻崎栄利子) No. 42
- 橋本委員 彼女の作は、なかなか近くで見られないし、怖い。どうやって収蔵?
- 立花学芸員 本人が専用の箱を用意している。見た目以上にしっかりとつくられている。
- 外館委員 取り扱いに緊張する。
- 石崎館長 この作品は意外と大丈夫だけど、購入の方の作品の方が怖い。
- 外館委員 ギャラリーに搬入するときも、本人が箱を作ってくる。
- (澤田痴陶人) No. 45-116, 215-225
- 唐澤委員 制作年については活動した窯の時期から没年で絞るとよいのではないか。痴陶人は日根野作三さんとも関係が深い。

(ドレスデン No. 117-214)

- 伊藤委員 評価額については？高いものもあるが。
- 立花学芸員 実際に商品として取り扱われてみえた方より聞いた。一番高額の作品も、実際に複数販売されたと聞いている。
- 伊藤委員 よく寄贈してもらえたね。
- 立花学芸員 開館当初に作品を1点購入していた頃からの縁による。

■イベントホールAにて

- 石崎館長 その他質問があれば。(特になし)。ご覧いただきました合計225点について、認めていただけるか。
- 全委員 異議なし。
- 石崎館長 ありがとうございます。ご賛同いただけたので、収集の方向で手続きを進める。それぞれの委員より、一言ずついただきたい。
- 伊藤委員 こちらの委員会は楽しみ。色々なものを見せてもらえる。現代を扱っているので当たり前かもしれないが、著作権関連などしっかりと調べられている。東博にいたときは考えたこともなかった。一つお願いしたいのは、いま、データベースで拾うことが多いので作品名をどうするのかということ。作家のつけた名前と検索するときの名前を別に記すのかなど、そういったところを考えてほしい。愛陶でも検討しており、作品名は一つしかないけれど、展覧会によって変わり得ることもある。現代作家の場合は、作家のつけた名前は大事なので、こちらで考えたことを勉強させてほしい。
- 唐澤委員 バラエティに富んだ作品群。西日本の作品が手薄だったことを聞いて改めて実感したが、今回、備前など充実したのではないか。県立館の場合は縛りがある、県内を中心と言われるかもしれないが、ここは陶芸館なので全国規模で集めて、全国的にみてもここは素晴らしいと感じてもらえる。澤田痴陶人については、作品の窯名などから、制作年を絞れるのではないか。我々の参考資料にもなる。
- 外館委員 岐阜県現代陶芸美術館ならではの、3本の柱による広がりのある作品。備前、萩、有田、小石原の作品が充実してきたことも素晴らしい。先ほど伊藤委員が言った作品タイトルについて、現代においては、作家のつけた名称を最大限に尊重しつつ、タイトルとは別に検索しやすいものも入れる必要があるかも。林正太郎作のような茶碗の場合は、銘まで入れるのを基本としては。作者自身の銘については、銘まで入れてこそ、意味があると思う。
- 橋本委員 每年、県立館としてこれだけの予算が付き、執行されているのがすごいと思う。収集方針に地域のことが書かれていない。地域性のことを入れない

方がいいのかもしれないが、（先ほどの話を踏まえると）ここに何らかの文言を入れてもいいのでは。収蔵庫は大丈夫？文化審議会の博物館部会が、名前を変えて文化施設部会になった。ミュージアムだけで話をするのではなく、音楽堂や図書館なども含めた複合文化施設として検討。ダウンサイジングしてでも地域の文化レベルを落とさないように。

矢橋委員

私は単にコレクターで、一県民だが、岐阜県人として、予算の厳しいなかこれだけの作品を集めたことに感謝したい。私の親父が、「金がないから骨董品が買えないというのは違う。年末に骨董屋に借金がないようで、どうするんや」と言っていた。県の美術館として借金するわけにはいかないが、欲しいものが明確にあって、これだけバラエティに富んだものを集めた。デザイナー、陶芸家の作品の違いについてもよく分かった。何点か欲しいものもあったが、（こうした感覚が）大事なことと思う。なんで俺のところに来なかったかと思ったものもあったが、納税者として本当にありがたい。先ほどの収蔵庫に関連し、一つ止まっている作品がある。県有施設の空き収蔵庫があり、先年いただいた三島さんの作品を入れているところに続けて、田嶋悦子さんの作品、段ボール 130 箱の寄贈希望作品を考えている。目途が立ったら年度途中に、この会の延長ということで、書面で審査をいただきたい。

石崎館長

三島さんの作品はかさばる？

伊藤委員

しまっておくと場所をふさいでいるだけなので、定期的に大きいものを、入れ替えでも、3年サイクルでも考えながら活用したい。

石崎館長

桑田作品（屋上展示の「陶木」）も、いいところにあるし。

伊藤委員

こここの施設は広いが、美術館は施設管理者ではないので、相談して展示を考えていきたい。

以上をもって委員会を閉じる。ありがとうございました。